

市場ニーズを読み新商品を開発 専門性に富んだ人材の積極的な活用

明治42年、現在のひたちなか市で創業。以来、青果小売業、卸売業、青果加工工場と業態を変えながら、農業産出額全国3位の茨城県において、新鮮で安心して食べられる野菜を提供している。主力事業は、食品メーカー、スーパーマーケット、コンビニエンスストア向けの業務用加工野菜製造。主に地元産の野菜を原料にカット野菜を中心とした加工野菜を生産している。また、急速凍結機による冷凍野菜の製造・販売等も行っている。

●所在地 茨城県ひたちなか市平磯町18番地

●電話／FAX 029-263-3331／029-263-3332

●URL <http://www.kk-seki.co.jp/>

●代表者 代表取締役会長兼社長 関 孝範

●設立 1909年

●資本金 3,000万円

●従業員数 475人



独自製法による「国産冷凍蒸し栗ペースト」を開発

茨城県は全国1位の栗の生産量を誇るが、県内には栗の大規模加工施設がなく、大半は生栗のまま出荷しており生産者の付加価値は高くない。また「中食」の定着化により「加工食品」の地位は確立されてきている。このような状況を踏まえ、同社石岡工場では茨城県産の栗100%を原料とした「国産冷凍蒸し栗ペースト」の製造販売に着手した。製造工程においては、同社の強みである「急速凍結機」を使用し、一般に用いられている緩慢凍結機に比べ、素材の鮮度を保持しつつ製品を加工できるといった特徴がある。



国産冷凍蒸し栗ペースト

製造加工工場の大規模改修による生産性向上・業務効率化

同社の栗ペーストは、大手チェーン店向けの大型受注が中心であり、年間約100トンの生産数量が見込まれている。このように長期安定した受注が見込まれるため、令和2年10月竣工予定で石岡工場の増改築を進めている。具体的には、7億円に上る大型投資により冷蔵設備の増設、及び製造ラインの拡充を図り、人的負担やコストの削減を実施して、大幅な生産性向上と様々な業務効率化を図る。また、各研究機関とは商品開発のための協力・連携体制を構築し、先進的研究に基づく消費者向けの商品展開等にも取り組む。



石岡新工場のイメージ図

専門性に富んだ人材の積極的な活用による企業のブランド化

同社では、石岡工場増改築に合せ自社ブランドとなる新商品開発に向け、プロジェクト・チームを発足させる。また、大手食品メーカーのOBやスキルの向上を目指す中途採用者等、優秀な人材を積極的に採用し、商品開発力の向上に取り組む計画である。また、本部のスタッフ部門では、金融機関出身者を積極的に採用して、企画運営力の向上、財務体質の強化等、高度で円滑な組織運営体制の構築にも取り組んでいる。以上により、人手不足解消に加え、企業価値向上や競争力強化を行い、企業ブランドの構築を行っている。



研究開発の様子